

悔しさをバネに世界へ飛躍

インド地下鉄工事で現場監督を務めた阿部玲子さん



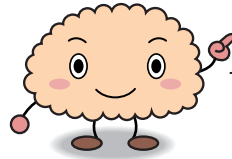
事故と隣り合わせの危険な地下鉄工事は、常に現場監督的確な指示が求められます。



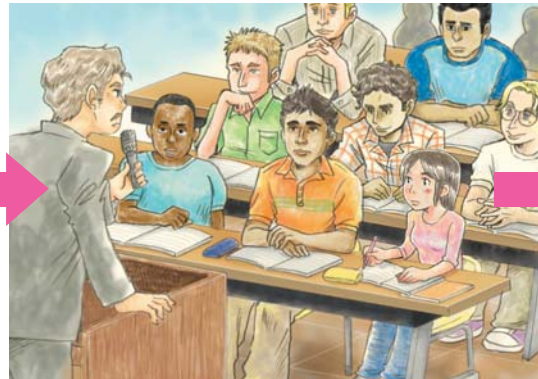
作業服姿でインド・バンガロール地下鉄公社局長に工事の説明をする阿部さん(左)。



阿部玲子さん



このインド地下鉄工事は、ODA(政府開発援助)の一環として、JICA(国際協力機構)の協力で行われています。



男性と同じ仕事を担当できず、悔しい思いをしていた当初。仕事をしながら勉強し、ノルウェーへの留学を果たします。いまや現場のトップに立ち、部下には「マダム」と慕われています。

取材協力 株式会社オリエンタルコンサルタンツ

インドの地下鉄工事で女性初の現場監督を務めた阿部玲子さんは、建設会社入社当初、男性と同じようにトンネル工事を担当できず、悔しい思いをしてきました。その悔しさをバネに、「きつといつか自分もトンネルの仕事をしてやる」と、働きながら留学に向けて勉強し、世界で活躍できるエンジニアを目指したのです。努力が実った今、「苦労はしたけど、自分はラッキー」と、笑顔で語ってくれました。